



月刊 千葉労働

組織拡大に向けて闘おう

京葉支部定期大会

12月16日、なのはな倶楽部において、京葉支部第11回定期大会が開催された。

大会の冒頭、中村支部長は、「今年は、3月に強制配転粉碎に向けた二波のストライキを貫徹した。この闘いで風穴をあけることはできなかったが、一層の団結強化を獲得した。また今年、何と言っても5・28判決が重要だ。11月集会でも確認したとおり、これは日本の労働者すべてにかけられた攻撃として反撃してきた。期末手当では、東日本と貨物の格差が年間一・五カ月になっている。これは分割・民営化が間違っていたことの証拠だ。JR総連と結託した体制を打破して、組織拡大に向けて闘おう」と提起。

その後、本部長中野委員長の挨拶を受け、執行部からの議案提起が行われ、熱心な討論ののち新執行部を選出し、満場一致で新年度の方針が決定された。

《だされた主な意見》

● 指令対応がおかしい。送電故障時に、23:30過ぎてから京葉線に臨電を走らせる言いだし、そのために、21:50分に終わっていた運転士が0:28分の出勤を命じられた。

● 指令が、鉄道用語の意味すら知らない。何でも「抑止」と言うが、抑止した場合あは、抑止解除の指示が必要なことすら知らない状態だ。

● 京葉は、勝浦廃止による配転者、館山縮小に伴う配転者、駅にも検修にも強制者がいる。元の職場に戻す取り組みを強化してほしい。

● 勤務終了時に、退区時間ぴったりにならないと点呼をとらない、退区点呼に要する時間もあるはずで、おかしい。

● 輸送混乱時に、東京では運転士に弁当や食事代をだしている。千葉と東京で対応が違うのはおかしい。

また出先の対面点呼はやめるべきだ。蘇我駅など、東京の運転士はやっていない。

● 当局は、ダイ改をどう考えているのか。年二回もやると駅では、ダイヤ表の変更等大変な作業になる。また、爆弾予告があっても平気で電車を動かすしている。

● 組織拡大について、本部の考え方を聞きたい。

● 京葉運輸区は職場の設備が最低だ。ロッカーを開けると向かいが使えないし、畳の部屋もない。

【98年度新役員】

支部長	中村正己
副支部長	石川義雄
書記長	佐藤勝巳
執行委員	渡辺照夫、桜井信弘、吉清博、市原信昭、関藤博、斎藤一、青山義章、外山浩
特 執	嶋田嘉彦、加田嘉彦、山田嘉彦
会計監査	大久川恵二、川我正二

大会で檄を語る 中村支部長



春闘二波のストライキをバネに 組織拡大を実現しよう!

幕張支部定期大会

二月一四日、十八時より千葉市民会館に於いて、第二一回幕張支部定期大会が開催された。高橋執行委員の開会のあいさつで大会は始まり、議長に長田君を選出して議事が進められた。大会の冒頭、石幡支部長は、「この一年間は、激動の一年でした。春闘を二度のストライキで闘い、一人の脱落者もなく団結して闘いました。来年は、新たな組合員を獲得して、あかるい職場を造り上げ、支部を発展させていこう。」と組合員に訴えた。また三名の転勤者の紹介と挨拶、その後、本部より布施副委員長の挨拶を受け、執行部より議案提起が行なわれた。

大会は、熱心な討論の後、新執行部を選出し、満場一致で九八年度の方針が決定され、最後に石幡支部長の団結ガンバロウで大成功のうちに閉会した。

出された主な意見

- ・ 構内外注化、大修の外注化について
- ・ 出向について
- ・ 強制配転者の現職復帰について
- ・ 予科生の登用について

〈幕張支部は、総団結でガンバロウ!〉



【九八年度新役員】

支部長	石幡佳和
副支部長	繁沢敬一
書記長	小沢勇
執行委員	木村勇、高橋栄、市東正巳、渡辺勝、長田敏之、高田昌史、山田護
特 執	山田護
会計監査	星和信、煤沢武夫